

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

タイトル	EU メカニズム市場 European Union mechanisms market
主催	オーストリア、ベルギー、フィンランド、フランス、イタリア、オランダ、スウェーデン、イギリス、欧州委員会
日時	2004年12月9日(木)18時～20時
主要討論者	オーストリア、ベルギー、フィンランド、フランス、イタリア、オランダ、スウェーデン、イギリス、欧州委員会の各代表1名
傍聴者	約40人(コンサルタント、研究者など)
目的	ヨーロッパコミュニティの中で行われている CDM・JI・ET の現在の実施状況を紹介し、異なる EU 加盟国とのインフォーマルな情報交換の場を提供する。
発表の概要	<ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパコミュニティの中で行われている CDM・JI・ET の現在の実施状況を紹介する。 EU-ETS のレジストリーシステムを例証する。(イギリス)
主要な論点	<p><オーストリア></p> <ul style="list-style-type: none"> 京都議定書の削減目標と国家の排出削減ポテンシャルのギャップを埋めるために、JI/CDM プロジェクトからの ERUs/CERs の購入、カーボンファンド・ファシリティへの投資を行う。 <p><ベルギー></p> <ul style="list-style-type: none"> 政府は 2008 年から 2012 年の間に 1200 - 1300 万トンのクレジットを購入する。 CDM を促進するための優先順位として、世銀の地域開発炭素基金 (World Bank's Community Development Carbon Fund) への投資を通じての南北間での技術移転、コンゴ共和国でのカーボンシンクへの投資を通じての生物多様性、社会経済的発展が挙げられる。 <p><フィンランド></p> <ul style="list-style-type: none"> フィンランドの CDM/JI パイロットプログラムでは、PCF へ 900 万ユーロの投資、バルト海地域で TGF へ 200 万ユーロの投資、二国間 CDM/JI プロジェクトに 900 万ユーロの投資を行う。 公式的なメカニズムの利用の決定は 2005 年初期に行われ、また CDM/JI のための新規の予算が議論される。 <p><フランス></p> <ul style="list-style-type: none"> フランスのレジストリーソフトウェアの紹介。 <p><イタリア></p> <ul style="list-style-type: none"> イタリア炭素基金 (Italian Carbon Fund) は、原子力発電プロジェクト、大規模水力発電プロジェクトを除き、プロジェクトタイプの制限はない。 プロジェクトサイズには何の制限もないが、取引費用次第である。 地域的な制限はないが、選好としては中国、LAC、地中海地域、バルカン半島、中東諸国がある。 <p><オランダ></p> <ul style="list-style-type: none"> 削減目標の 50% にあたる 1 億トンを柔軟性メカニズムを用いて達成する。内訳

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

	<p>としては3分の1がJI、3分の2がCDMである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 早く始めてリスクを取る、チャレンジすることの重要性とそこに立ちはだかる障壁、最終的に良いプロジェクトを得るための多くのプロジェクトの必要性などが経験上、見えてきた。 <p><スペイン></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気候変動オフィスのためのイベロアメリカンネットワーク（Iberoamerican Network for Climate Change Offices）は、公私のセクター間のつながりを促進し、また地域の競争と市場へのアクセスを促進するためのものである。 <p><スウェーデン></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SICLIP（Swedish International Climate Investment Programme）の目的は、柔軟性メカニズムを利用することによる経験を得て、参加するためのキャパシティを高めることにある。またこのプログラムで得られた経験は将来 CDM/JI プロジェクトに投資するスウェーデン企業の助けになる。さらに国内・国際両方のメカニズム発展に寄与することができる。同時に費用対効果の高い排出削減ができる。 <p><イギリス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ UK のレジストリー協力の紹介。
<p>所感</p>	<p>後半部分ではスウェーデン、イギリス、フランスのブースに別れた。イギリスのブースでは EU-ETS のトレーディング方法を実際にコンピュータを用いてその場で行っていたが、参加者から操作方法についての様々な質問が飛び出しており、関心の高さが伺えた。</p>
<p>資料</p>	<p>なし</p>

文責：井上 智尊